

三里塚軍事空港粉砕！二期工事着工実力阻止！ 9.14三支共闘東京集会に結集せよ！

赤軍

共産主義者同盟
赤軍派(プロ革)
中央機関紙

再刊準備第42号
1979年9月1日

発行所
燎原社

発行人 広瀬進
電話 03-912-8481
郵便物 東京都荒川区荒川郵便局
私書箱17号 燎原社
月刊(毎月1回発行)
定価 200円
定期購読密封一年分(千共)
3000円

9.14三支共闘東京集会

所・三田勤労福祉会館
(国電田町駅下車)

時間・6時半開場

全国の先進的労働者、農民、学生のみならず、

九・一六三里塚現地総決起集会に向け、我々が三支共闘は九月十四日、三田勤労福祉会館において前段総決起集会を開催する。九・一六闘争に始まる今秋の闘いを全力を傾注して、文字通り八十年代の闘争の旗を掲げて闘い抜かねばならない。

戦争とファシズムの攻撃の激化の中で、産業報国会化の進展に抗し、下層労働者を先頭に被弾取被差別抑圧労働人民の反抗は全国的に巻き起っている。

八月十四・十五日、山谷統一労働組合と共闘する夏祭り実

ソ米覇権争奪の激化と戦争の危機の増大

ソ連はキューバ・ベトナムを先兵にして全世界的覇権を侵襲を強化している最も危険な戦争策源地である。ベトナムのカンボジア侵略を公然とテコ入れし民族自決を踏みにじり戦争を挑発している。他方米帝は中国人民外交・第三世界の反覇権闘争の前進がソ連の覇権侵襲を抑えようとするという政治的条件を利用し

行委の下、延べ二千数百名の山谷労働者を結集して空前の夏祭りがかちとられた。越冬闘争・山谷春闘・九州土建追求闘争・六・九闘争と打ち続く攻勢と、この中で着実に蓄積されてきた団結の上にこそかちとられた勝利であり、動労千葉、全芝浦屠場労働組、三里塚芝山連合空港反対同盟を始め、多くの闘争仲間が支援連帯と、戦闘の先進的「障害者」、部落大衆との共闘・反差別人民団結の上にこそかちとられた勝利である。

中国人民外交「平和の擁護」は革命を促進する

イラン革命、ニカラグア革命はソ米の介入を退けて勝利した。このソ米の介入の遮断の下での勝利・第三世界の反帝反植民権闘争の前進は、中国の革命的人民外交の大きな成果にほかならない。昨年来の日中条約締結・中米国交回復は、ソ米覇権争奪に反対し、ソ米の矛盾を巧みに利用して、帝国主義の戦争とファシズムへの衝動を抑えつつこれと連合し、最大の戦争策源地であるソ連の覇権を人民外交の大きな成果であり、人民外交の大きな成果であり、ベトナム侵略者への断乎たる自衛反撃戦はソ連・ベトナムの覇権主義・戦争挑発に決定的な痛打を浴せたばかりでなく、民族自決権をあくまで防衛・擁護する強固な決意を全世界の労働者階級人民に実際において示したのであり、民

沖縄闘争戦士に対する20年判決糾弾 連赤・企業爆破戦士に対する死刑求刑糾弾

元号法を頂点とする戦争とファシズム準備に 対決せよ

イラン革命・OPEC石油値上げは日帝にインフレ再燃の石油危機をつき出した。第二の石油危機を突き出した。それ故支配階級の政治的焦点は九月解散・末総選挙に絞られ、すでに内部の対立、抗争の激化を伴いつつ、これに向けての動きが激しさを増している。大平政権は今春季統一地方選の保守・中道連合による圧勝と、春闘の資本の側の圧勝を基礎に、元号法制定を頂点に天皇制・天皇制イデオロギーを軸とした戦争とファシズム準備を公然と、激裂化した。この春季の資本の側の攻勢の上に、今回の新自民の分裂、公明、民社、右傾化をもつての中道連合連合がある。この保守・中道連合の再編・強化こそ戦争とファシズムに向けた中間連立政権策動に他ならない。

他方において戦争とファシズムの社会的支柱の育成が急テンポでおし進められている。国鉄七万四千人の合理化を始めとする産業構造の転換に向けた産業基盤の整備推進と一体に、全通一反マル生越年闘争への四・二八大量処分攻撃にも典型的な官公労の戦闘的翼への解体攻撃が激化しており、これに呼応して総評民同・社帝勢力の文字通り権力・資本の先兵としての戦闘的部分の切り捨て攻撃が公然化している。動労、全金など最たる例である。

二期工事着工実力阻止をもって秋期闘争の圧倒的勝利を戦取せよ！

政府・公団は欺瞞的な「対話路線」を再開し、反対同盟を頂点とする今秋の闘争は文字通り八十年代階級闘争の帰すを制する重大な闘いである。九・一六闘争を持つて開始される秋期闘争に総力をこめて決起することが我が革命の左翼に先進的プロレタリアの建設は見事に完成した。

反対同盟一丸となって、二期工事着工実力阻止に向けた決意と体制を打ち固めている。動労第三四回大会における社帝カクマルによる本部一元支配と「柔軟路線」への転換に見られる合理化への一層の他方総同盟をパイプ役総評、屈辱とは対照的に、敢然と労働同盟が話し合いの席についた。農連帯を掲げてジェット闘争に邁進する動労千葉を始め、

七月十六日の運輸相森山の発言に対して十九日これをキツパリと拒否する宣言を反対同盟は発した。すでに大風車は立ち上り、木の根を掘り出さねばならぬ。反対同盟一丸となって、二期工事着工実力阻止に向けた決意と体制を打ち固めている。動労第三四回大会における社帝カクマルによる本部一元支配と「柔軟路線」への転換に見られる合理化への一層の他方総同盟をパイプ役総評、屈辱とは対照的に、敢然と労働同盟が話し合いの席についた。農連帯を掲げてジェット闘争に邁進する動労千葉を始め、

9.24
25
全金本山全国闘争
仙台現地へ！

●79春闘総括

日本労働運動の現状

79春闘は、東京都知事選をはじめとして、79年統一地方選の全くの労働側の敗北、賃金闘争も5・9%の超低額で妥結させられ、その上で「雇用創出機構」の設置要求を目玉とした八制度・政策要求は、はみるべき成果が何もなく、まさに「春闘5連敗」で終わった。このような結果で終わった79春闘及びその総括としての総評第59回定期大会の政治的意義について考えてみたい。

1、79春闘をとりまく情勢

78年度の日本資本主義は73年石油危機以後の長期の不況を脱出したかにみえた。

実際日本政府は、79年度「経済白書」においても「設備投資、企業収益の改善、増収増益、物価の安定、国際貿易の不均衡の是正、雇用情勢」とかの経済指標にみられて、73年気分の景気の調整過程が終り、以来の景気の調整過程が終り、内需主導型で実質成長5%、6%の安定成長の軌道に上ったと宣言した。

しかしこのような日本資本主義の八内需主導型の安定成長は内外の不安定な政治的均衡の上に成り立っていたにすぎなかった。

73年の石油危機・75年4・30のベトナム革命の勝利で、米帝等国際帝国主義は世界的過剰生産恐慌におそわれた。米帝はいち早く、イラン・パレ体制をベルシャワの警戒とし、中東の「安定」支配を確保し、ドルのたれ流しでもって石油の安価で大量の収奪を基礎にして75年から景気の回復の局面に入った。

日本資本主義は、米帝のこの景気の回復を牽引力にして、天皇制ファシズムの権力再編をこに徹底した総需要抑制策・不況政策をとり、産業構造の再編・「減量経営」と称した首切り、合理化・倒産、賃金抑制攻撃をやり、これで国際競争力を確保し、いわゆる八輸出主導型で米帝と連動しつつ景気の回復局面に入った。西独も同様である。

2、79春闘総括

このような日本資本主義の体制的危機の発展と天ファをこに内外の労働者人民への犠牲転嫁・矛盾の内向的累積の増大という情勢の中で、79春闘はどのように戦われたのか。

今春闘において総評・民同は資本の必死の賃金抑制・合理化攻撃に戦う前から屈服し、統一した八賃金要求基準をこに提出し、産業構造の再編にともなう企業間・産業間格差の拡大に解体した八産業自決方式を無条件に主張した。その上で春闘を職場生産点の具体的な賃金要求の要求ではなく、形骸化した「国民春闘」路線の下に、「日本社会の民主的変革」のためにと称し、統一地方選や制度・政策要求闘争に解消してしまふ。

このような賃闘・反合闘争からの逃亡・日和見主義は、本資本主義は、73年以後の石油危機の際のような「総需要抑制策」・輸出主導の景気回復策をとることが、現在の国際条件ゆえにできず、天皇制ファシズム権力再編の一層の強行の展開をこに、インフレ、一般消費税の導入・大量の国債発行・大衆収奪の強化を基礎とした、景気刺激型財政政策を基礎としつつ、ファシズム経済・国官独化の方向で、産業構造の再編・合理化・首切り・倒産・賃金抑制攻撃を強化するなど、米帝と同様の本格的な不況とインフレの同時進行・スタグフレーションの政策をとらざるをえなくなり、更に恐慌の矛盾を激化せざるをえない。このように日本資本主義は政治的経済的危機を深め、結局のところこの矛盾をスタグフレーション政策をもって、「韓」国・アジア人民や日本労働者人民へ犠牲転嫁し、天皇制ファシズム・朝鮮（アジア）侵略反革命戦争体制の構築で乗り切ろうとしている。

3、79春闘から総評大会まで

7月の59回定期大会に向けて6月25日に総評の79年度運動方針（案）がだされた。この内容たるや全く79春闘の敗北の居直り、その合理化労働者の団結を破壊する。同時に被差別人民・未組織下層労働者に差別と貧困を極限的に集中し、切り捨て犠牲にする方針である。このような方針では、目玉としてあげた「雇用創出機構」の設置要求など制度・政策要求にみるべき成果もなく、79統一地方選も保守・中道連合に大敗北し「保守回帰」などによれば、賃闘も5・9%の低額におさえられるなど、春闘5連敗は必至であった。このような賃闘・反合闘争からの逃亡・日和見主義と一体に総評の戦闘部隊である公労協の分断・解体策動が一層強化されている。昨春闘での全通のスト脱退以後、公企体等基本問題会議の答申の攻撃・全電通の「公労協一括方式

反対」「電気労連との大差別共闘」などの春闘見直し論・公労協への参加・スト棚上げ論から続き、今春闘においては富家の国鉄4組合対等合併・全電通の春闘脱退、国鉄のスト早期収拾・ストなし春闘策動の強化等々大々的におしすすめられている。

あるいは又このような動向と一体に今までの総評内に包括できていた八革命的労働運動を排除・弾圧するという暴挙にでて来た。

例えば労働千葉・全金本山等々除名処分等をやったり、あるいは78・79の越年・物溜争い、これに対する郵政省の4・28処分攻撃に反対する闘争、全通・民同は、この戦いの中で下部の戦闘的革命的労働者を省当局に売り渡し、実験時短・特異制の導入等を承認し中期路線の復活を目論んでいる。など。

4、総評定期大会

各単産の定期大会に引き続いて、7月24日から総評定期大会が開かれた。主要な論議が八労働統一問題に終始した。79春闘の賃闘・反合闘争からの逃亡・日和見主義、中小未組織下層労働者、被差別人民の切り捨て、東京都知事選の敗北・春闘5連敗も何ひとつまじめに総括せず、総評内の革命的労働運動を排除し踏み台にして、何何でも八統一という汚い執念だけ暴露した。

総評は、統一のための、官公労との全的統一を基礎とした八4原則7方針を放棄し八民間先行を承認しつつ、この右再編に反対する部分には、「八左」の看板を背負って、いけば、どんな少数派になってもいいのか八水割りウイスキーになっても統一する八八制度・政策要求を実現するための八労働統一・多数派の形成が必要だ」と喝喝する。

他方、同盟・J・Cの統一の原則八反共で労働組合主義八国際自由労働の加盟に對し八選別主義反対八特定の国際組織の加入を条件とすべきでない」と反論し、同盟やJ・Cの総評・公労協包囲・解体策動に對抗し、労働統一の主導権争いをやりはじめた。そして労働統一については八一定の危機をもちつも大胆にそれに踏みこんでみよという意思統一ができたこととは大きな収穫だ」と総括し総評の八再生と80年代労働運動の展望を、同盟・J・Cと争いつつ総評・民同の主導力で労働統一を切り拓かんと意気こんでいるわけだ。

しかしこれと一体に提案された春闘を八官民総がかりで戦う方針は、鉄鋼の回答時期に合せて私鉄や公労協のストをうつつというものが結局J・C主導の春闘・ストな一発回答に追いつけられる

リア階級独裁・社会革命をめざす革命的労働運動を切り捨て排除した。内包できなくなつたことだ。

このような総評・民同の79春闘での賃闘方針・公労協の分断・解体・ストなし春闘策動・労働千葉・本山等革命的労働運動の排除・弾圧、これをしてこに八右より八労働統一論等々の動向は、日本資本主義の体制的危機の乗り切り策・天皇制ファシズム権力再編をこにした首切り、合理化・倒産・賃金抑制攻撃・産業予備軍・未組織下層労働者・被差別人民を極限的集中点とする差別と貧困の強制に屈服し、資本主義の体制的危機に際しこれを積極的に救済せんと、同盟・J・C主導の労働統一（八天皇・愛国労働運動）・天ファと朝鮮（アジア）侵略反革命戦争の左からの支柱の画期的な飛躍台となつたと総括できる。

このように総評・民同は79春闘の中で実践的にプロレタリア階級独裁・社会革命をめざす革命的労働運動を切り捨て排除した。内包できなくなつたことだ。

このような総評・民同の79春闘での賃闘方針・公労協の分断・解体・ストなし春闘策動・労働千葉・本山等革命的労働運動の排除・弾圧、これをしてこに八右より八労働統一論等々の動向は、日本資本主義の体制的危機の乗り切り策・天皇制ファシズム権力再編をこにした首切り、合理化・倒産・賃金抑制攻撃・産業予備軍・未組織下層労働者・被差別人民を極限的集中点とする差別と貧困の強制に屈服し、資本主義の体制的危機に際しこれを積極的に救済せんと、同盟・J・C主導の労働統一（八天皇・愛国労働運動）・天ファと朝鮮（アジア）侵略反革命戦争の左からの支柱の画期的な飛躍台となつたと総括できる。

このように総評・民同は79春闘の中で実践的にプロレタリア階級独裁・社会革命をめざす革命的労働運動を切り捨て排除した。内包できなくなつたことだ。

このような総評・民同の79春闘での賃闘方針・公労協の分断・解体・ストなし春闘策動・労働千葉・本山等革命的労働運動の排除・弾圧、これをしてこに八右より八労働統一論等々の動向は、日本資本主義の体制的危機の乗り切り策・天皇制ファシズム権力再編をこにした首切り、合理化・倒産・賃金抑制攻撃・産業予備軍・未組織下層労働者・被差別人民を極限的集中点とする差別と貧困の強制に屈服し、資本主義の体制的危機に際しこれを積極的に救済せんと、同盟・J・C主導の労働統一（八天皇・愛国労働運動）・天ファと朝鮮（アジア）侵略反革命戦争の左からの支柱の画期的な飛躍台となつたと総括できる。

題への態度である。昨春秋の米帝等国際帝国主義の第三世界への侵略と反革命政策の翼賛路線を支持し、今回の不況・石油危機に際し、中東・第三世界の犠牲の上に八よりよいエネルギー問題の解決を要求するものであった。

東京サミットの侵略と反革命の本質を粉飾するために動員された、帝国主義超過利潤の伴食者たる国際労働貴族の連合である。

これをもつて総評・民同の小ブル民主主義・平和主義の性格が資本主義の体制的危機の中で、その救済のために、一挙に社会排外主義・天皇制ファシズムと戦争の公然たる社会的支柱へと八発展した姿である。

このような三点ぐらいの動向が総評の79年度方針（案）として集約・体系化されているのだ。

総評・民同の右旋回は今春闘・79年度方針（案）で全く質的に飛躍を遂げたと言える。

各単産の定期大会に引き続いて、7月24日から総評定期大会が開かれた。主要な論議が八労働統一問題に終始した。79春闘の賃闘・反合闘争からの逃亡・日和見主義、中小未組織下層労働者、被差別人民の切り捨て、東京都知事選の敗北・春闘5連敗も何ひとつまじめに総括せず、総評内の革命的労働運動を排除し踏み台にして、何何でも八統一という汚い執念だけ暴露した。

総評は、統一のための、官公労との全的統一を基礎とした八4原則7方針を放棄し八民間先行を承認しつつ、この右再編に反対する部分には、「八左」の看板を背負って、いけば、どんな少数派になってもいいのか八水割りウイスキーになっても統一する八八制度・政策要求を実現するための八労働統一・多数派の形成が必要だ」と喝喝する。

他方、同盟・J・Cの統一の原則八反共で労働組合主義八国際自由労働の加盟に對し八選別主義反対八特定の国際組織の加入を条件とすべきでない」と反論し、同盟やJ・Cの総評・公労協包囲・解体策動に對抗し、労働統一の主導権争いをやりはじめた。そして労働統一については八一定の危機をもちつも大胆にそれに踏みこんでみよという意思統一ができたこととは大きな収穫だ」と総括し総評の八再生と80年代労働運動の展望を、同盟・J・Cと争いつつ総評・民同の主導力で労働統一を切り拓かんと意気こんでいるわけだ。

しかしこれと一体に提案された春闘を八官民総がかりで戦う方針は、鉄鋼の回答時期に合せて私鉄や公労協のストをうつつというものが結局J・C主導の春闘・ストな一発回答に追いつけられる

このように総評・民同は79春闘の中で実践的にプロレタリア階級独裁・社会革命をめざす革命的労働運動を切り捨て排除した。内包できなくなつたことだ。

このような総評・民同の79春闘での賃闘方針・公労協の分断・解体・ストなし春闘策動・労働千葉・本山等革命的労働運動の排除・弾圧、これをしてこに八右より八労働統一論等々の動向は、日本資本主義の体制的危機の乗り切り策・天皇制ファシズム権力再編をこにした首切り、合理化・倒産・賃金抑制攻撃・産業予備軍・未組織下層労働者・被差別人民を極限的集中点とする差別と貧困の強制に屈服し、資本主義の体制的危機に際しこれを積極的に救済せんと、同盟・J・C主導の労働統一（八天皇・愛国労働運動）・天ファと朝鮮（アジア）侵略反革命戦争の左からの支柱の画期的な飛躍台となつたと総括できる。

このように総評・民同は79春闘の中で実践的にプロレタリア階級独裁・社会革命をめざす革命的労働運動を切り捨て排除した。内包できなくなつたことだ。

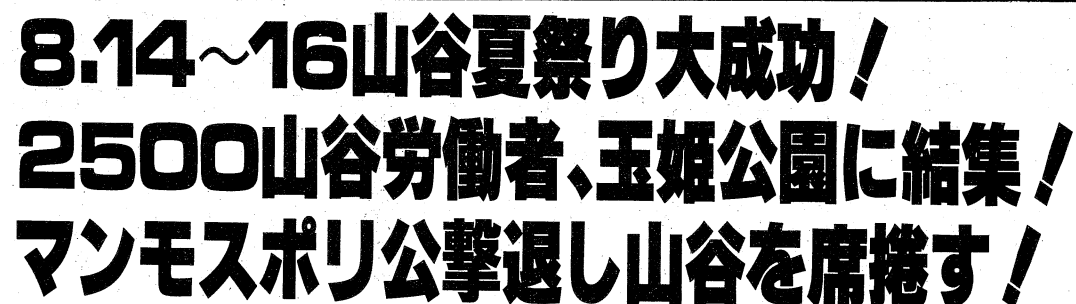
このような総評・民同の79春闘での賃闘方針・公労協の分断・解体・ストなし春闘策動・労働千葉・本山等革命的労働運動の排除・弾圧、これをしてこに八右より八労働統一論等々の動向は、日本資本主義の体制的危機の乗り切り策・天皇制ファシズム権力再編をこにした首切り、合理化・倒産・賃金抑制攻撃・産業予備軍・未組織下層労働者・被差別人民を極限的集中点とする差別と貧困の強制に屈服し、資本主義の体制的危機に際しこれを積極的に救済せんと、同盟・J・C主導の労働統一（八天皇・愛国労働運動）・天ファと朝鮮（アジア）侵略反革命戦争の左からの支柱の画期的な飛躍台となつたと総括できる。

このように総評・民同は79春闘の中で実践的にプロレタリア階級独裁・社会革命をめざす革命的労働運動を切り捨て排除した。内包できなくなつたことだ。

このような総評・民同の79春闘での賃闘方針・公労協の分断・解体・ストなし春闘策動・労働千葉・本山等革命的労働運動の排除・弾圧、これをしてこに八右より八労働統一論等々の動向は、日本資本主義の体制的危機の乗り切り策・天皇制ファシズム権力再編をこにした首切り、合理化・倒産・賃金抑制攻撃・産業予備軍・未組織下層労働者・被差別人民を極限的集中点とする差別と貧困の強制に屈服し、資本主義の体制的危機に際しこれを積極的に救済せんと、同盟・J・C主導の労働統一（八天皇・愛国労働運動）・天ファと朝鮮（アジア）侵略反革命戦争の左からの支柱の画期的な飛躍台となつたと総括できる。

このように総評・民同は79春闘の中で実践的にプロレタリア階級独裁・社会革命をめざす革命的労働運動を切り捨て排除した。内包できなくなつたことだ。

このような総評・民同の79春闘での賃闘方針・公労協の分断・解体・ストなし春闘策動・労働千葉・本山等革命的労働運動の排除・弾圧、これをしてこに八右より八労働統一論等々の動向は、日本資本主義の体制的危機の乗り切り策・天皇制ファシズム権力再編をこにした首切り、合理化・倒産・賃金抑制攻撃・産業予備軍・未組織下層労働者・被差別人民を極限的集中点とする差別と貧困の強制に屈服し、資本主義の体制的危機に際しこれを積極的に救済せんと、同盟・J・C主導の労働統一（八天皇・愛国労働運動）・天ファと朝鮮（アジア）侵略反革命戦争の左からの支柱の画期的な飛躍台となつたと総括できる。



賃闘・反合闘争からの逃亡、日和見主義・除名処分攻撃を充分にはねかえせず、左翼少数派組合・赤色労働組合主義を主張する。あるいは労働運動の民同・社帝の「強固」な支配に絶望し、労働者の生命と生活・権利を守る改良闘争・民主主義闘争を全く否定する召喚主義のテロリズムを主張する部分である。

我々は、天フアー侵略戦争の社会的支柱たる総評・民同の天皇愛国労働運動形成の策動に對抗し、「左」右の日和見主義との党派闘争を強化し、天フアー反対社会主義実現をめざす「革命的労働運動の防衛・団結・発展をかちとり、80年代に向けての動労千葉・本山・山谷等々革命的労働運動を中心に広範な労働者の革命的統一」をかちとり、労働運動の指導権を革命派が奪取してゆかねばならない。

と生命を守るためだけでなく、この最賃の底上げを基礎として社会福祉関係費の一般的、全般的上昇を確保し、日本資本主義の差別・低賃金構造を粉碎しうるものとして戦かって来た。

このような最賃闘争を要とする戦いは総評・民同の賃闘・反合闘争からの逃亡・日和見主義、労働者間の分裂・対立・競争・差別と排外主義を促進し、被差別人民・下層労働者を切り捨て、犠牲の基底とする今春闘方針に対抗し、官・民を問わず、組織・未組織を問わず、革命的労働運動を中心に広範な労働者を地域・全国的に団結させうる実践的武器であるのだ。

そしてこのような戦いをして4 P 下段に続く

3 P 下段から
おして、日本資本主義の元号
法制化策動等の天フ・権力再
編をてことした産業構造の再
編・不況・インフレ政策に反
対し、社会主義の実現・賃金
奴隷制廃絶に向けた階級的団
結と戦闘能力を身につける。八
てこVになることができる。

山谷春闢は山谷1下層労働
の戦いの中の総評・民同へ
の追随者・右翼日和見主義・
経済主義と戦い、同時に八当
面の多数の人びとの実践から
離れ、当面の現実性から離れ
V労働者の実際的具体な社
会的政治的要求を組織できず
戦いを個人的決意に解消する
「左」翼日和見主義の部分と
分岐を引き実現して来たもの
である。

このように戦かわれた79山
谷春闢は山谷労働者の階級的
団結の砦である山統労の一層
の団結と戦闘能力をきたえ上
げ、他方天フの左から補完
である同盟・JC主導の天皇
愛国労働運動形成を促進しつ
つある総評・民同の79春闢に
対抗し、この労働組合支配を
一掃する、80年代に向けての、
賃金奴隷制の廃絶・社会主義

弾劾糾弾二周年闘争を貫徹する！

を引きずりこむための工作を強め、それが失敗するや一層戦争策動を強化しだした。カーター政権は、戦争とフアシズム権力再編をテコに、新エネルギー計画に見られる大独占奉仕の省エネルギー戦

定歩合の二度の引き上げによる超高金利政策によって、中小資本を倒産させ、労働者階級人民に犠牲を転嫁して産業構造再編を行い、国家官僚独

木の根灌漑事業勝利万才！
大平―森山の対話路線再開―同盟切り崩し策動粉碎！

しかし對抗的に、第三世界の民族解放・民主主義・社会主義革命、第二世界のプロ独社会主義革命と結合した、反帝反社帝のプロ独社会主義革命が着実に成熟してきている。

国際ニュース

対し、社会主義の実現―賃金奴隷制廃絶に向けた階級的団結と戦闘能力を身につけるへてこゝになることができる。

の戦いの中の総評・民同への追隨者・右翼日和見主義・經濟主義と戦い、同時に八当面の多数の人びとの実践から離れ、当面の現実性から離れ

このように戦かわれた79山

谷春闕は山谷労働者の階級的団結の砦である山統労の一層の団結と戦闘能力をきたえ上げ、他方天ファの左から補完である同盟・JC主導の天皇愛国労働運動形成を促進しつ

つある総評・民同の79春闘に
対抗し、この労働組合支配を
一掃する、80年代に向けての、
賃金奴隷制の廃絶！社会主義
実現のための、革命的労働連
動の大連合の一翼になう戦

を引きずりこむための工作を強め、それが失敗するや一層戦争策動を強化しだした。

新エネルギー計画に見られる
大独占奉仕の省エネルギー戦
略―統制経済化を強め、又公
定歩合の二度の引き上げによ
る超高金利政策によって、中
小資本を倒産させ、労働者階

級人民に犠牲を転嫁して産業構造再編を行い、国家官僚独占資本主義化を急速におし進めている。

しかし対抗的に、第三世界の民族解放・民主主義・社会

主義革命 第二世界のプロレタリア革命と結合した、反帝反社帝のプロレタリア革命が着実に成熟してきている。